オリエンテーリング
危険回避

交通事故はコースで防ぐ

木村佳司

コースプランひとつで交通事故が防止できる。

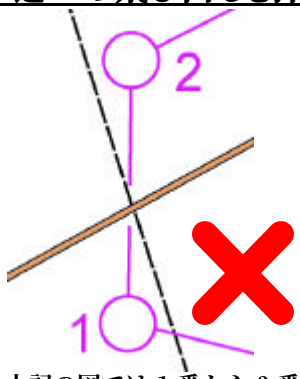
2003 年 3 月に起った交通事故。
インカレ 2002 リレーの最中にランナーがバイクと接触。バイク運転者はランナーを回避するため、田んぼへ転落。ランナーは骨折。道路に沿って走るだけでもこうした事故が発生してしまった。

交通事故はプランで防ぐ

オリエンテーリング中にはいろんな危険が潜んでいますが、最も気をつけなくてはならないのが交通事故でしょう。里山で行われるオリエンテーリングは一般道路を使用することが多いことから、競技中に交通事故の危険性があります。

ランナーは競技に夢中になるあまり、一般道路での安全確認が疎かになりがちです。このことを良く認識の上コースプランナーはコース設定を行い、交通事故が起らないようにお願いしたいです。

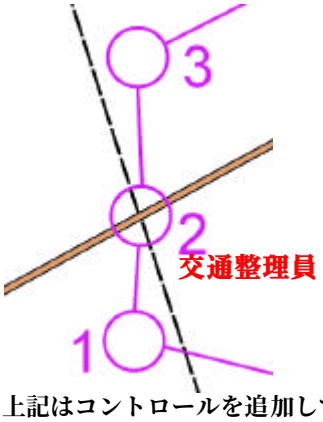
車道への飛び出しを抑える



上記の図では 1 番から 2 番に行くまでの間に車道を横切ります。このようなコース設定でも車道へ出る部分が登りであれば、ランナーが勢いよく車道へ飛び出すことはまずありません。しかし、車道横断のポイントが一箇所に限られるため、ランナーはタイムロスを最小限のするために、無理な横断を企てるものです。

このようなコース設定は安全とは言えないので、横断地点に交通整理の人員を配置する必要があります。

こうなると確実に交通整理員のいる横断箇所を横切ってもらうために、誘導コントロールを置くか、誘導区間を設けて確実にそこで横断してもらうようにします。

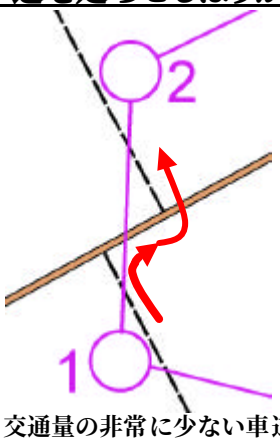


上記はコントロールを追加して道路横断地点に誘導しているパターンです。

この 2 番のフラッグ位置についても一工夫します。車道を渡る手前にフラッグ設置して、そこで一旦ランナーの足を止めるようにします。

このように車道へ出るフラッグ位置は「手前」が基本です。「道路の向こう側」にフラッグを設置すると、役員の制止も聞かずに走り出すランナーが後を絶たないからです。

車道を走らせるほうが安全



交通量の非常に少ない車道を横切るコースの一般的な組み方です。

ランナーは車道に出てもすぐに横断する必要はなく、2 番に向かう小道に入るまでに車道を横断すればよいのです。

この間、ランナーには安全確認をしっかり行って横断していただきます。

あくまでも交通量の非常に少ない道路横断の時にだけ使用する方法です。

高速道路の横断

ランナーは往々にしてプランナーの想定以外の挙動を示します。高速道路へ歩行者は立入禁止です。しかし高速道路の周辺を使用するオリエンテーリング大会において、高速道路へ侵入したランナーが過去に何例も見られました。私の知る限りでは、関越道、北陸道、中国道、宇部興産道路をランナーが横切ったという話を聞いています。きっと全国規模ではもっと多くの例があるでしょう。

今まで、幸いにして事故になっていませんが、もし事故が起れば重大です。

プランナーが、「ここは高速道路だから、常識で考えて、ランナーは間違って入らないだろう。」と思っていても、高速道路を横切るルートが速くて、物理的に高速道路に侵入できてしまえば、ランナーは高速道路を横断する傾向にあります。いくら主催者が「常識で」と考えていても・・・です。

それはオリエンテーリング自体が「一般常識では入らないような山の中を通るような競技」だからではないでしょうか。

このようなランナーに対応するためには、どう間違っても高速道路を、立体交差でしか横切ることができないようなコースを設定するしかないようです。

立体交差は 0-map では表しにくく、二次元である地図の表現の限界があります。こうした 0-map の特性を理解した上で、コース設定でそれをカバーすることが必要でしょう。

安全意識こそ最も大事

ランナーの自主性や良識に甘えず、自らの主催するイベントではランナーの安全は主催者ががっちり確保するという安全意識を持ってコースを設定することが必要でしょう。そしてコースを何人かで試走して、危険箇所が無いかを充分に検証することが重要です。

（木村佳司）